

# 又吉文学の「人間」発売!

## 編集者より

誰から頼まれたわけでもなく、自分で勝手に始めて、自分で苦しんでいる。その状況がおかしくも愛おしい。これは、「なぜ毎回、何かの表現に携わる人物を主人公にするのか?」というインタビューの質問に対する、又吉さんの回答です。

『人間』は、むしろ担当編集者である私が依頼して書いてもらった小説であり、又吉さんが勝手に始めたものではないです。勝手に、なんてそんなわけないです。たしかそつだったはず……。

と、急に自信がなくなるのは、依頼した瞬間の記憶が霞かかっているためです。たしかそれは新宿のバーで、又吉さんの回答です。

「そんなこと僕、言いましたっけ?」  
「人間」に着手するまでに、時間はかかりませんでした。きつと、ずつと前から準備していたのでしょつ。ただ、ほぼ毎日、掲載される「新聞連載」というかたちで始まることだけは、さすがに想像していませんが、【梅山景史】



10日午後1時ごろ、出版クラブホールにて

### 待望の書籍化

お笑い芸人で作家の又吉直樹さんの最新刊『人間』が10日、全国(一部地域を除く)で一斉に発売された。この日、都内で記者会見した又吉さんは「1年近くかけて執筆した小説がようやく書籍になって嬉しい」と語った。『人間』は芥川賞受賞作『火花』、『劇場』に続く3作目で、又吉さん初の長編小説となった。

若者たちの夢や挫折を描いた『人間』は、又吉さんが敬愛する太宰治の没後70年となる昨年9月から毎日新聞で連載された新聞小説を書籍化した。『火花』『劇場』ではともに、青春のただなかに描いている。

会見では、初の試みとなった新聞の連載について「連載ならではのライプ感があった。締め切り直前になり、路上でパソコンを開いて書いたことも」と振り返った。「登場人物や物語の設定は、今まで一番僕に近い」と話し、自身の経験や想いを投影した代表作となった。

今後は、書店訪問や小説家・西加奈子さんとのトークイベントなども予定されている。

### ストーリー

漫画家の夢に破れた男が、38歳の誕生日を機に、かつて過ごした同世代の仲間との日々を振り返りながら、忘れかけていた苦い過去と向き合う物語。四六判ハードカバー、368ページ。1400円(税別)

### 著者プロフィール

又吉直樹(またよし・なおき) 1980年、大阪生まれ。お笑いコンビ「ピース」として活動する傍ら、2015年執筆の『火花』が第153回芥川龍之介賞を受賞。ほか著書に『劇場』、自伝的エッセー『東京百景』などがある。

### 文芸界・読者の声

人間は、愚かだ、けど、生きているんじゃない、愚かだから生きている。又吉さんは、人間の愚かさを信じているんだと思う。そして、愛しているんだと思う。

西加奈子さん(小説家)

今後の又吉文学にとつての、重要な萌芽がいくつもあつた。そのすべてが美しい。

中村文則さん(小説家)

表現で生きていく、ということ。そして、東京で生きていくということ。これは表現者たちの小説であると同時に、「東京」を描いた物語でもある。東京という街が持つ、独特の掟、話法、関係性の、泥臭さと不自由さ。解放感と劣等感、自由と嫉妬。大阪、沖縄、奄美を経て東京は解体され、そして物語の果てに私たちはふたたび、東京に出会う。

岸政彦さん(社会学者)

このタイトルは凄いです。まさに「人間」でした。「人間」を読むことができよかったです。

山本智子さん(未来屋書店 高崎オーパ店)

しみじみとラストの一文が、今も心に流れています。たつた一文に無限の煌きがある。

山田恵理子さん(うきぎや 矢板店)

## サイン会に長蛇の列

記者会見の前には、三省堂書店神保町本店でサイン会を開催。又吉さんの新作をいち早く手に入れようと、熱烈的ファン50人が列をつくった。会社を休んで来たという20代女性は、「書籍化を待ち望んでいました。早く読みたいです」と目を輝かせた。同店では、期間中(10月10日~11月9日)に書店員が『人間』オリジナルTシャツを着て新刊の発売を宣伝する。



変な話だが、自分が小説を書くことになつたのは、想像してこなかった子供の頃から、この物語の断片を無意識のうちに拾い集めていたような気がする。

# 人間

又吉直樹  
初の長編小説にして、代表作、誕生。

## 10/10<sup>木</sup> 本日発売



978-4-620-10843-8 [定価] 本体1400円(税別)